

フィールド
レポーターだより!!



2005年度 第3回調査

「竹の利用法調査」結果報告

今回報告される「竹の利用法」は、ちょうど春休み期間に開催されたギャラリー展示「博物館を楽しもう！」でフィールドレポーターさんの展示コーナーで発表された内容です。展示ケースいっぱい、身近に使われている竹製品や新たに手作りされた竹製品、そして暮らしの中で使われていた竹製品も展示され、興味深く拝見しました。また、会場の中央に置かれた体験コーナーには、竹とんぼや竹笛などのおもちゃが並び、子どもたちが、親やおじいちゃん、おばあちゃんと楽しそうに遊んでいた姿も見られました。会期中の日曜日には竹細工づくりの教室も開催され、フィールドレポーターさんのご活躍ぶりに敬服したのを思い出します。

また、今回、改めて、調査の詳細を拝見することができ、フィールドレポーターさんの思いに触れることができ、うれしく思っています。ありがとうございます。

竹は、身近にあり、加工しやすい、有用な生活材で、暮らしに使う道具やおもちゃ、年中行事の飾り(七夕飾り、門松など)などを作るために使われてきました。博物館の民俗収蔵庫を見ても、竹で作られたかごやざる、魚をとる漁具など、数多く目につきます。また、タケノコは春の味覚として楽しむことができます。こんな地域に残る竹林も、ひとたび手入れをやめると、どんどんと繁殖し土地を荒らす厄介ものとなってしまいます。

この竹林という財産を活用して、地域の中で、人々がともに、竹林を管理し、竹を使い、タケノコを楽しむということができたらすてきなことだなあとと思います。

実は、博物館の敷地の中にも竹林があるんですよ。私が呼びかけた、はしかけグループ「展示室を楽しくする会」の活動の中で、博物館の生活実験工房の田畑や屋外展示の森をいかに活用できるか試しています。ぜひ、フィールドレポーターさんといっしょに、博物館の竹を使って竹細工づくりなどをやってみたいです。

また、「竹」と一言と言っても、使う用途によって、生物学的な種類だけでなく、生えている場所や切る時期、切った後の処理の仕方などに、作る人のこだわりがあるようです。こうした先人の知恵も、博物館に集う方々といっしょに掘り起こし、次の世代を担う子どもたちといっしょに受け継いでいけたらなあと願っています。

はしかけグループ「近江はたおり探検隊」担当
学芸員(民俗学担当) 中藤 容子

「竹の利用法調査」結果報告

FRS 森 擴之

竹は昔から、日用品の材料や食材など人の生活に欠かせない存在でした。しかし、戦後、生活様式の変化に伴う代替品の普及などにより竹製品は減少するようになりました。

また、人々の生活に密着して維持されてきた里山は、戦後の燃料革命とともに薪や木炭が使われなくなると、里山を利用したり、手入れをしたりする人が減り、竹林を含めた里山は管理されなくなってしまい、全国的に竹林の拡大による森林の荒廃が進み、水質保全の面からも極めて好ましくない影響を及ぼしています。

竹は固く、弾力性もあり、空洞と節があります。割烈性という縦に細く割れる性質があることから、竹ひごが取れ、いろいろな竹細工をつくることができます。さらに、竹の繊維は細長く、木材よりも良質の紙をつくることが出来たり、レーヨン、竹炭、活性炭等の原料にもなります。

この他にも、竹の熱カロリーは木材よりも優れており、石炭の7割、重油の半分の熱量があり、成長の早さもあって、低コストな緑化保全型資源としての活用も注目されています。

今回の「フィールドレポーター・アンケート調査」では、私たちの身の回りで、どのような竹製品が使われているか、あるいは昔は使っていたが今は使っていない竹製品にどんなものがあるか、それはなぜ使われなくなったのか、などを調べていただき、その結果から、今後もっともっと「竹」を利用することによって、美しい自然と豊かな地球環境を保全する方策を考えようとするものであります。

1. アンケート回答数について

今回の調査では、66名の皆さんから回答を頂きました。回答して頂いた皆さんの男女別年齢構成は表 - 1および図 - 1に示すとおり、男女とも60歳代の皆さんが最も多く、男女併せて21人、次いで70歳代14人であり、両年代の皆さんで全回答者の53%を占めました。

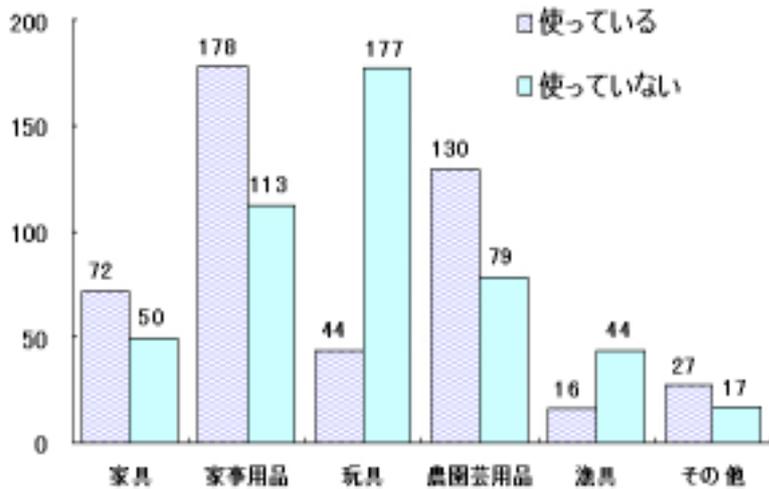
表 - 1 回答者男女別年齢構成

年代	男	女	計
20代	1	0	1
30代	1	4	5
40代	9	3	12
50代	7	3	10
60代	12	9	21
70代	11	3	14
80代	2	0	2
不明	0	1	1
合計	43	23	66



図 - 1 回答者男女別年齢構成分布

2. 今使われている or 使われていない竹製品



「今も使っている」及び「昔は使っていたが今は使っていない」竹製品にどんなものがあるか、複数回答で、回答を寄せてもらったところ、図 - 2 に示すごとく、玩具及び漁具以外の家具、家事用品、農園芸用品及びその他については「今も使っている」との回答数が「今は使っていない」を凌ぐ結果となり、多くの皆さんが実生活の中で、今なお、いろいろな竹製品を愛用されていることが覗える結果となりました。

図 - 2 今使っている or 使っていない竹製品

これらの製品群について、製品ごとに詳しく見ると図 - 3 (次ページ) に示すごとく、家具類では、椅子、テーブルなどは、昔ほど使われなくなっているが、すだれ、花瓶及びその他(扇子、うちわ、置物、敷物、電灯の傘 etc)などは、今なお根強い人気があるように思われます。

また、家事用品および農園芸用品については、物干竿、竹の皮(包装材)、はしごを除いて、他のものは、今も盛んに使われているようで、これらの製品群についても、家具類同様今なお健在の様子を垣間見ることができます。

一方、竹の「おもちゃ」は昔に比べて使われ方が極端に少なく、近年における「遊びの変化」を覗わせる結果となりました。また、漁具類全般についても同様の結果となりました。

3. 今使っていない理由

竹製品が使われていない理由についての質問に関して、34名の皆さんからの回答内容を図 - 4 に示します。

最も多く寄せられた理由としては「入手が困難」11件、次いで「生活環境の変化」7件、「今の製品の方が便利」、「遊びが変わった」がそれぞれ5件および「今の製品の方が安価」が4件であり、最近竹製品を販売する店が少なくなったことが推測される結果となりました。

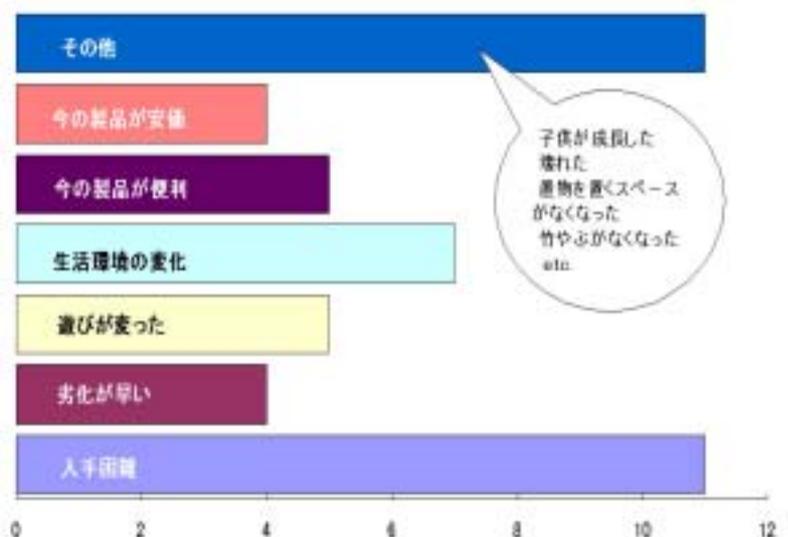


図 - 4 使われなくなった理由

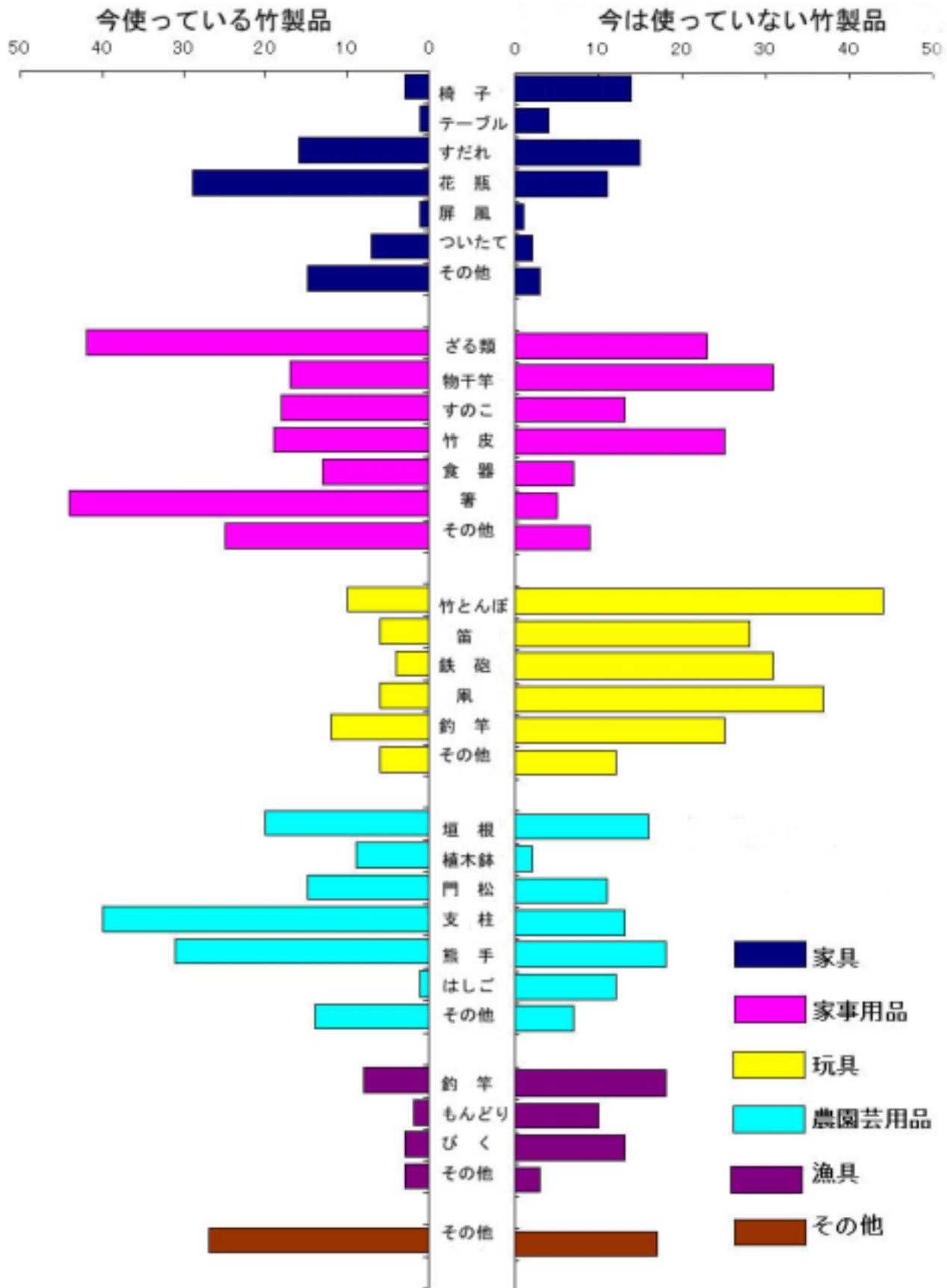
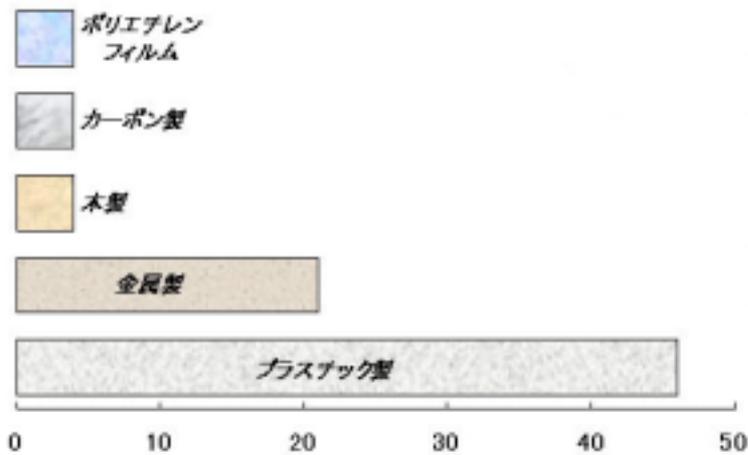


図 - 3 現在使われている竹製品及び今は使われていない竹製品

4. 竹製品は今何に変わりましたか



それでは、使われなくなった竹製品は現在どのようなものに変っていたのでしょうか。

この問いかけには、55名の皆さんから回答を寄せていただき、その大部分がプラスチック製品及び金属製品(アルミ、ステンレス etc.)に置き換えられているとの結果でありました。

図 - 5 使われなくなった竹製品、何に変わったか

5. 竹製品を自分で作ったことがありますか

過去、現在に限らず、竹製品を自作したことがあるか否かについて、60名の皆さんから回答を頂き、図 - 6 に示す結果を得ました。

複数回答で答えて頂いた回答数を単純集計すると、今はほとんど使われていない「おもちゃ類」の中でも「竹とんぼ」などは多くの皆さんが自分で作って、遊びに使っていたことが推測されます。

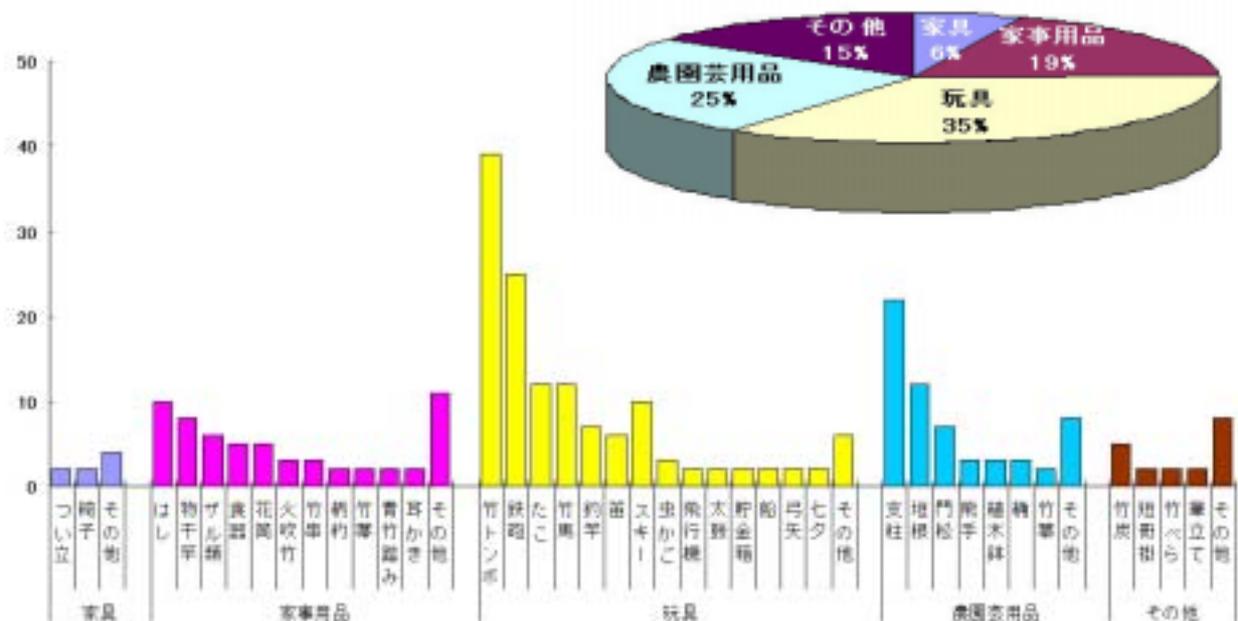


図 - 6 自分で作ったことのある竹製品

6. どこで作り、作り方は誰から習いましたか

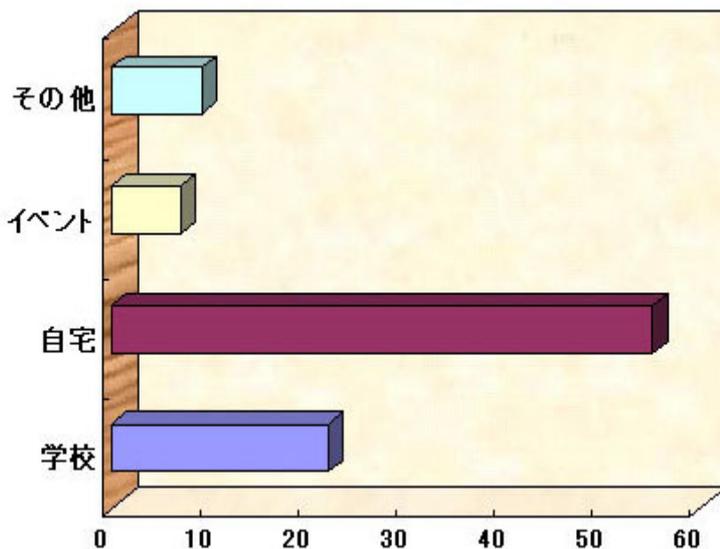


図 - 7 どこで作ったか

竹製品を自作した場所及び作り方を誰に教えてもらったかに関しては(回答者数 61)、図 - 7 及び - 8 に示すように、作った場所は自分の家、作り方を教えてくれた先生は「親」あるいは「知人」との回答が圧倒的に多い結果となりました。

対照的に、作った場所が「学校」、作り方を教えてくれた人を「先生」とした回答は比較的少ない結果でした。

この結果は、伝統文化伝承の場として『家』が重要な位置を占めていたことを如実に示しているものではないでしょうか。

最近のように、少子化あるいは核家族化の著しいわが国社会では、このような伝統が如何に引き継がれて行くのでしょうか。

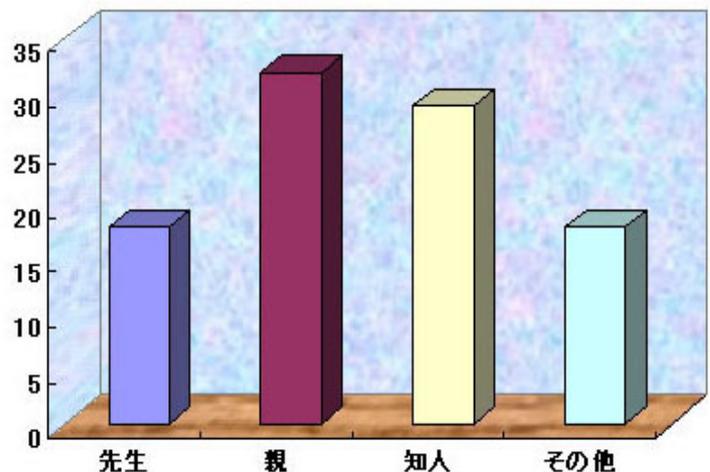


図 - 8 作り方を誰から習ったか



フィールドレポーター 村上靖昭さん作成

7. 使った竹の種類は何でしたか

自作にはいろいろな竹がまんべんなく使われているようです(回答者数 52)。

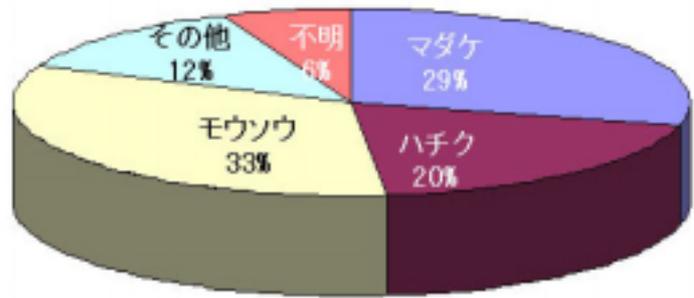


図 - 9 自作に使った竹の種類

8. 使った竹はどこで入手しましたか

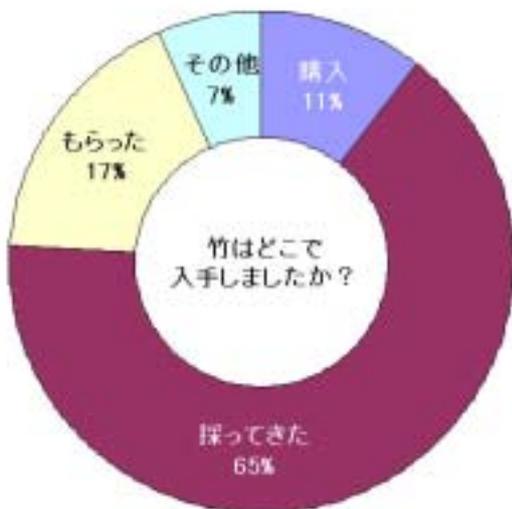


図 - 10に竹製品の自作に用いた竹材料の入手先を示します(回答者数 61)。

回答数の65%にあたる49件が「採ってきた」と答えています。

図 - 10 自作に使った竹の入手先

9. まとめ

竹製品の使い方に関する今回のフィールドレポーター調査において、明らかとなった特徴的な事柄は、

ざる・かご類、箸などを中心とした家庭用品ならびに農作業用の支柱、熊手などの実用品あるいは花立て(花瓶)などの装飾用品などは、昔に増して、今なお盛んに使われていること

最近は竹のおもちゃ(玩具類)はほとんど使われていないこと

昔は、竹細工作りの技術は主に家庭で親から子に技術伝承されていたこと

の3点でありました。

ほとんどの竹製品がより安価で大量生産が可能なプラスチック製に変わってしまい、竹製品を販売する業者も少なくなっている現在、更なる竹製品の利用を促進するためには、親から子へと伝えられてきた竹細工作りの技術伝承を絶やさないことも重要ではないでしょうか。核家族化の進むわが国社会においては、なかなか難しい問題かもしれません。

10. 利用法の事例アイデア

調査票に自由に記載して頂いた竹の利用法、アイデアについて、出来るだけ原文のまま記載いたします。(順不同)

竹ぽっくり: 保育園の子供用は低いやつだったけど、家の子どもは小学生だったので、思いっきり高いやつを作ってやった。(イラスト)
柿やゆづ等、高所にあるときに先をハサミにして枝を折って果実を取る。 花畑のサク畑作物のタナ(エンドウ豆類、キウリ、山いも等のつるになる作物用)
知人が炭火であぶり、黒く艶を出し、花瓶等装飾品として作っていた 竹炭、バンブダンス 雪国では(北陸)では家の回りを竹でかこいます(家が押しつぶれないように)
子供の頃竹の根でムチをつくってあそびました。 又ビーズのかばんをつくって、竹の根で作られた取っ手を買って完成させました。 竹の根のステッキはすばらしい。先生がパチンと黒板をたたかれると、ビクッとしたものです。 ウチワを1片の竹を細かく裂いて仕上げてゆくおじさんの手をあきもせず見ていた。
ふなずしなど竹の皮を使うと味がよくなりますが、入手困難。
農業用支柱: 現在は鉄にプラスチックを巻いたものが多いのですが竹を割って支柱にすれば丈夫なものができますし、焼却するのも簡単です。 農業用ハウス(トンネル)の支柱: 現在ほとんどプラスチック製ですが、竹製は丈夫で長持ちします。 焼却もできますし、折れても短い支柱に使えます。
人形が作れる。 竹炭。 排水用の資材
竹の皮は、おにぎり、鯖の鮓、丁稚ようかん、菊水飴、肉屋の肉などを包む。 煮物をする時、鍋の底に敷き焦げ付きを防ぐ。 落し蓋の代わりにする。 鮎鮓を漬けたとき、味噌を仕込んだ時一番上に乗せる。 まんじゅうを載せる。 昆布巻きの帯ひも、草履、かぶり笠、版画のバレン等数多く利用されている。 竹の皮は手軽な嵩の低いものと言うことではなく、腐敗を防ぐ目的もあったように思う。
竹炭を作ってみたい。 食器、はし等を自作することができるのでは、と考えている。
昔、竹スキーというものがあつたと聞きました。
古式ゆかし神事(竹笹)又新築時の地鎮祭等。 又一般的に縁起物に使われる。 魚類の珍味、肉類の包み敷に使われている「竹の皮」
薪でたきものをする時に、たきつけとして紙と共に燃やしています。 外には、タケノコを食するくらいです。

<p>山ではチシマザサ(俗にネマガリダケ)のタケノコを採り、茹でて食べます。 アスパラガスに似た味と食感です。</p> <p>切り株に十字の割れ目を入れて腐らせ、踏み抜き負傷を防ぐ山林管理の習慣が伝承されにくくなっているように思われます。</p>
<p>和ブームの今、もっとすてきなインテリア家具が売られてもいいと思います。</p>
<p>竹ゴザ、活性炭、利用法はあっても利用価値や経済性(200~300円程度)も利益がないと普及しない。</p>
<p>でっちゃんかんを昔は竹った。 くずれやすい魚は竹の皮下敷いて煮た 「わらぞうり」の鼻緒に竹皮と藁をまぜる</p>
<p>人間きですが竹製のベットが東南アジアの国から輸入されている。1台30万円とか 竹を燃やすとき出てくる垂液(名前?)は畑の肥料となる。 竹炭は火力も強い(作るのに少々大変とか)しご飯を炊くときお釜に入れると味良しと、お風呂に入れると薬風呂のような役割 以上私の未知なる利用法を今後実行し、他に名案(迷案)考えたい。</p>
<p>家を建てるときの必需品 竹とワラ縄で美しい壁下地が作られた。 ちょうちんも竹ヒゴではなかったか。 個人の竹皮は声を掛けて無料でいただくが、土手などに生えているのは自由に採集した。 竹の皮は村外からも拾いにくる人がいた(仕事として) 多賀町富の尾大滝神社ではササチマキが作られるが、戦時中兵隊さんの面会に何日も掛けていくとき、梅干のおにぎりでも腐敗臭がするため、米を米粉ダンゴにしてチマキを作って、おにぎりの代用にした。ササに包むと腐敗臭がしなかった。 小学校の校庭(約40年前)のそうじは竹箒・熊手チリトリ型 五右衛門風呂のふた ヨシ屋根職人さんは大きな竹製針が使われます。 昔の屋根(麦ワラ)の雪止めは竹だった。 石を入れるジカゴ(蛇籠)。 定規(和裁物差)</p>
<p>昭和30年代、農業をしていた時の思い出です。 田んぼがぬた田(湿田)だったため、排水のために深く掘り返し竹を大量に敷きこんだことがあり、手伝いでしたが、とても大変でした。 垣根として竹を植えたり、外トイレ回りを竹で囲ったり、花壇の回りを囲ったり、芽が出たばかりの野菜を囲ったり、皮はあくまきに、又細く裂いてつるし柿のヒモとして利用していました。 今も利用できるかは別です。</p>
<p>やな、エリ、四手網と追い竿、塩田の竹柴、鳥もち竿、堤防用石カゴ、竹べら、パルプ、燃料(割竹)、除雪車の竹ブラシ、土砂留め、杭と竹、治水用河辺竹林、防風竹林、野鳥の棲息竹林、畑の敷物(熊笹)、竹製の家(ドイツの事例)、獅子(猪)追い(水による音)、盆の墓参に新竹の花立、尺八、笙、ササラ、食用、日除け(愛知万博)、足場(香港)、竹槍、竹炭、竹紙、竹船、竹釘</p>

<p>40cm～50cm ずつ竹を切って、窓口をあけて、その中にろうそくをいれて、明かりをともし竹灯ろうをたくさん作ります。そして、除夜の鐘つきや地藏盆や震災追悼の鐘つきの時に参道の両わきに、竹灯ろうをならべたり、鐘楼のまわりに置いたりして、ろうそくにあかりをともし、よるに訪れる方たちの足元を照らしたり、建物をほんのり照らしたりして、ちょっぴり幽玄の雰囲気味わっていたきたいと利用しています。</p>
<p>食品の包装、サバ寿し、ぞうり(履)物の材料、茶道の道具、剣道用具、テンビン棒、竹の根元で楽器のシャクハチ、吹笛等。</p>
<p>竹の皮で草履をつくった 竹を割り、節を取りソウメン流しをした 竹を切るのは秋のハッセンが終わった頃、虫がつかず長もちします。正月からではダメ 竹炭をもっと安く作り、もっと広く利用する 竹工作の教室など家具、玩具を作って利用を広げる</p>
<p>パルプはとれないでしょうか、それともすでに作られていますか 細く割って、合板や、束ねて柱に出来ないでしょうか、ただし接着剤はニカワなどを使って私の住む家屋は築30数年の古家ですが、土壁が多く、昔どおり竹の下地で出来ています。昔のように建材として側壁や天井、床などの、もっと利用できる工夫がありそうに思うのですが</p>
<p>竹炭(竹酢液)をもっと活用(商品化・宣伝)出来ないだろうか。 容易な製炭法(煙を出さない)を開発出来ないだろうか。</p>
<p>竹の皮:京のおばんざいでは魚を煮る時ナベの底にしくと焦げ付かず取り出しやすい 竹 :京都の葬儀の祭壇は青竹だった。20年前よく見かけた。 ぬれ縁や温泉の脱衣所の床に竹が敷き詰めてあると 素足に気持ちいい</p>
<p>子供の頃は戦時中のことで、よく竹を一部割って歯車をはめて、機関銃のようなものを作って遊んだ。</p>
<p>すだれをもっと内装として利用できると思います。</p>
<p>弁当箱やざるに利用する。 アクセサリー(イヤリング、ブローチ)にも使えると思います。</p>
<p>インテリアとしてランプシェード、樹木や花の名前を書いて庭で使う(ネームプレート)</p>
<p>実家では階段の手すりに竹を使っています。歳年とともに味わいも出てきて、モダンな建築素材として利用できると思います。</p>
<p>花瓶としても利用ができないか</p>
<p>建材(内装材)、家具の化粧版</p>
<p>おにぎりをつつむ。 流しそうめん</p>
<p>太い竹の表面をけずり絵柄を切り抜いて光を入れて行燈を作る。</p>
<p>甲西町で、竹の皮の小物入れの工芸品が作られていると新聞で読んだ。</p>

<p>私方は昨秋自宅を改築しました。建物は木造瓦葺二階建てです。その際 1,2階の壁部分は全て土壁にしました。それには竹を幅 2.5cm～3cm 位に割り、棒状にしたものを柱と柱の間を縦・横に碁盤の目状に組んで編みます。その上にねば土を表から、裏からの両面から塗るという方法をとります。この土壁は耐震に強い(重量があるの?)と言われ、通気性がよく、健康上良いと言われています。(参考までに写真を添付します)</p>
<p>最近竹を利用することがなくなったがこれも時代の流れだと思う。 たとえば竹垣を作っても老朽化した時に燃やしてはいけないと言われるし、可燃物でゴミとして出してもかさばってしまう。 建築用の壁の下地も在来工程のいえが建てる人が少ないし、手間が高くて外国製の竹が入ってくる。 稲作にも天然乾燥にこだわる人以外は稲架竹として使わない。 高島、近江八幡、木の本で丁稚羊かん竹のかわを使っている以外に今では利用もないと思う</p>
<p>竹炭はカゴに入れて、消臭剤として部屋においています。 竹の繊維を利用した衣類がよく出回っています。</p>
<p>キャンプをした時などは器などによく使います。 カゴなどむずかしいので、はしおきやスプーンなど、簡単なものなら加工しやすいのでは。 竹の皮はお肉やさんで使っているか、でっちゃんぐらいしか思いつきません。</p>

11. 感想

<p>鳥のバランスのやつまたほしいんですけど作ってくださる方、おられませんか 竹ポックリなら、いろんな高さで、ひも付きで、いくらでも作ります！</p>
<p>放置竹林が問題になっている。 新しい活用法の情報発信を</p>
<p>食品の器に竹が利用されている(豆腐)、器として利用した後、燃やすことが出来るのでよいのでは 手遊びで手の甲にのせ、手のひらで何本取れることが出来るか(説明がうまくできない)</p>
<p>自然のものを使って生活に利用されていた竹の皮や、竹が今では美術工芸品。子供同志で遊びを通して学ぶものであったが、開発が進むところでは、竹の姿がすくなく、身近な存在でなくなっているのかもしれない。</p>
<p>古い籐椅子があるが、親子三代が使った。古くさいから、孫は捨てよと言った。いま、ソファの安楽椅子です。猫もこのほうが好きらしい。 竹藪そのものが宅地に転用されてしまっているのが残念。となりの県の京都のさかの、大山崎町、大原(桂地区)のように竹やぶを残すことは自治体として、できないのか？</p>
<p>タケノコは私の家では以前はあまり食べませんでしたが、家内が大好きなので家内が来てからよく食べますし、保存用に塩液浸にしてびんに保存し冬もよく食べています。 息子の嫁が盛岡から来ていて、盛岡はタケノコがありませんので、タケノコのシーズンにはタケノコを塩液浸にして送ります。毎年大変喜んでいただいている？ようですので大量に送ります。</p>

竹カゴ、ザル等が欲しいが中々手に入らない
垣根などは大変風情があるが、竹を切る季節によって、虫が入るので、長年の利用はできない欠点がある。 カゴは軽くて通気がよい。
筍、竹、竹の皮、笹など利用範囲も広いが、最近放置されている竹林の手入れをして、竹炭を作り、水の浄化に役立ててほしい。 竹にはきる時期があることすら知らない人が多い。
竹を利用していくことが、環境保全のためにもなるし、現金収入の道も開けるのでは、とも思う。 どんどん使っていきたい。
里山保全のためにも、積極的に竹を活用することが必要だと思います。 公有地の竹を利用しやすいような制度、窓口を作るとよいのでは？
孟宗竹：タケノコが柔らかく、アクが少ないので当地では五月に旬の食材として抜群 細工物には不相当であるが「イナキ」の材料としてよく利用した 幹が厚いので竹炭にして利用 地下茎が延び隣接の林が困っている 真竹：細工物の材料として利用 竹皮は利用価値が多く「竹の皮ひろい」と言って子供の小遣いかせぎになった
むかし、旧制中学時代剣道部に入りました。 初段まで行きましたが終戦で止めてしまいました。 ご存知の通り竹刀一本で、一对一の激戦は忘れられない思い出です。 この剣道をやった仲間 の親友の一人清水君(滋賀大元経済学部長)七段は現在も活躍中ことに海外米国初め東南アジア 諸国から招聘もあり出かけ、指導普及に当たっている。 彼はオリンピック種目(柔道のように) に入ることを願ってやっていると 一方での考え方あり。
宅地造成が急速に進み(竹藪)が毎日のごとく無くなりつつある。 この乱伐によって風水害に影響して洪水の被害が大きくなりつつある。「河川」沿いの竹藪またはいろいろなところにある竹藪 をみんなが保存してゆくべき、と思う。 この流れも日々の竹製品がなくなりつつある為なのか？ 又外国製品に依存しつつあるためなのか？ もっと見直すべきであり、誠に残念なことと思います。
昔、昭和30年～50年代、身近に竹林があり生活の場でも竹を材料にした用具がいろいろあった ように思います。 地震がきたとっては竹林に逃げ込んだ記憶もあります。 改めて源氏を見回して、昔日の感を強くしています。
祖父の作ったカゴ等が残っています。 器用だったのですね。 私にはとても無理です。 自宅の近くの堤防には刈っても刈っても竹が生え、その繁殖力は驚くばかりです。 今では、野菜 作りの支柱に使われるくらいです。

伐り出して長年保管した竹が非常に硬く、削りにくくなりましたが、水煮にしたところ非常に削りやすくなりました。

小学一年生に庭に生えていたクロチクを伐らせたところ非常に面白がり、新しい体験となりました。

近くの小学校や彦根市立図書館で子供たちにクラフトの指導をしていますが、ナイフを使用することを許さない為、子供たちが非常に不器用なままとなります。

2006年には子供たちと伐り出した延べ竿、縫い糸、天然又は食品転用の餌、手作りの浮き、自転車のバルブの古い虫ゴムの浮きゴムで魚釣をしたいと思っています。

デザイン、使い勝手を改良して、もっと毎日の生活に取り込めるような品ができてきて欲しいです。

荒れた竹林を開放し、竹を安く販売するなど地域のニーズに合った利用を自治体とうで竹林の持ち主と交渉推進するのはどうか？

竹はある程度利用して間引きしないと、竹藪自体が荒廃してしまうため、どんどん生活に利用していくべき。

太い竹を割って、堀を編んだけれど、風化して、耐用年数が短い。プラスチック製が重宝がられる理由と思う。

書道、茶道、華道、剣道、など日本古来の文化に竹が多く使われていることを知った。そろばん、ものさしなど計算・計測にも役立っている。

大量に使用されるのは壁下地や、屋根用の棧(わら屋)がある。数寄屋造りの家にも、四角竹などが使われている。

精密な竹板を用いて、集成材を造ればビルなどに良質で長尺の建材として使えると思う。

紋所、竹の丸、竹に雀。

竹はいろいろな物に利用でき、昔から利用されてきました。

竹で編んだ花器や、カゴ等は繊細でもあり美しくすきです。

裏には山があり、すぐ近くには竹やぶがあるというところにすんでいますので生活するのに、とけとか木材とかは欠かせないものになっています。お風呂をたくにしても、おもちをつくにしても、まきがたくさんいり、竹は、かや屋根のふき替えにはなくてはならぬものになっています。いろんなものに使っていますが、つくづく大切なものだなあと思います。

やっかい物扱いされているので、有効利用できるとよいと思う。

竹炭の火力が高いのなら、粉にして、かためてバーベキュー用の炭にすることが出来ないのだろうか

竹を伐採する時期を最適期(冬)に切らないと、建材等に使用した後、材に虫が発生する時がある。昔草ぶきの家のハフ、屋根裏等に使用してあった竹、数十年前より煙、ススでクンセイ状態になった竹は非常に強度が高い。

今、竹林のほとんどが放置されていると見受けられる。

環境の保全のためには、竹の利用法を並行して取り組む必要がある

趣味で農園をする人は竹を欲しが人もあるが、無断で取れない

所有者の管理法を見直す姿勢が欲しい

<p>いぜんは肉屋では、竹の皮に商品をつつんでいた おにぎりも竹の皮につつんでいた</p>
<p>私は西市辺ですが、東市辺では今でも籠を作っておられる人がいます。</p>
<p>子供の頃は旧永源寺町の山村で住んでおり、全く何も無かった時代ですから、遊び用具は、ほとんど自分で作っていたように思います。 冬に思い出すのは、たこを作るのに竹ヒゴを削って、手を傷だらけにして結局うまく揚らなかつたり、竹とんぼも飛ばなかつたです。 また、雪の上をすべる竹のソリを作って遊んでいました。</p>
<p>竹の皮で包まれた肉やサバ寿司はおいしそうに見える(感じる) 輸入品が多くなったのは竹林の管理と加工が面倒で経済効率が悪くなったから。</p>
<p>古い竹籠など、今でも使用しているが、なかなか便利なものである。 今では、作る人が少ないので、新しいものが買えない。 (使用している籠は古の桑つみ籠で、今では、にわの葉刈りの葉の捨てる時によく使っている)</p>
<p>最近の竹は弱いようです(病気・害虫?)。</p>
<p>我が家では夫の夏の背広に竹の繊維の入ってるのを着ていますが、この服にはどれ位竹が使用されているのかわかりませんが、着心地良く型が崩れなく良いなと思います。 もっと繊維としていろんな所に使われれば良いなと思っています。</p>
<p>古くから利用されていた家具等は風情があり、日本家屋にはピッタリだったのがげんざいの家屋には利用することの少なくなったのが残念です。 夏用建具に変わると落ち着いたものです。</p>
<p>どちらが先かよくわからないが、竹やぶの手入れをしなくなったことにより、余り材での竹製品の手作り機会が減ったように思われる。(竹が身近でなくなった) 自分のところの竹やぶもそうであるが、里山と同じように(里山の一部)整備されず、手入れの行き届いたところはめったに見かけなくなった。 植林地ですら、ほっておかれるのだから、竹やぶは整備が極めて困難。</p>
<p>アジアから安い竹製品が多く入ってきています。 日本のものに比べ作りが粗雑ですが、日本の竹製品が和風に片寄っているのに対しマンションなどの洋風な家やインテリアとも調和するところが人気のひとつだと思います。 何事もセンスが大切だと思います。</p>
<p>竹細工が伝承されていない。イベント等竹利用を広げることが必要</p>
<p>竹製品は値段が高いので、ついついプラスチック製品とかを使ってしまう。</p>
<p>もっと竹を家庭の身近な所に利用できるように考えたい。</p>
<p>竹を竹やぶから、家までのすべての作業がとてもむずかしいので、使えません。 手に入れることができないのです。</p>
<p>意外に竹製品は多いことに気が付きます。 竹細工で自宅に飾りたいものもありますし、自分でも作れそうです 意識をすることで、利用が高まるのですね</p>

これから増える元気な停年退職者のボランティアで竹林の保全をお願いし、竹をガーデニングや工芸品、手芸品に利用してもらおう。たとえば夕涼みの床机、庭の周囲の目かくし等、趣味で作ってもらおうとか工業的に低コストで竹炭を作り水底に沈めて水質浄化、へやのインテリアの中に入れて消臭に使う手間はかかるが天然乾燥のこだわり米を再び広める(作ってくれる人があれば)

子どもの遊び道具とした親や祖父が作ってくれた思い出があります。

竹の子を食し、鯉のぼりの支柱、七夕のささかざり、そして手遊び用道具として子ども時代にはいろいろな思い出があります。

洗濯物がひるがえり、古くなった竹はかまど用燃料になり、本当に身近な竹でした。

竹でかごなどを作る場合、同じ大きさにさいて加工するのが、なかなかむずかしく、なかなか自分で作るまでやろうとするとむずかしいです。おもちゃとしては、私も小学校の頃つくっていたので、今の子ども達でもやれば楽しいと思います。



真竹テングス病



真竹さび病

荒廃した竹林(メッシュコード 5236-4090)の竹に発生した病気(筆者撮影)

竹の利用法調査のご案内

エジソンが京都の竹の繊維から電球のフィラメントを作って、当時の電球の寿命を飛躍的に改善したという話は、どなたでもよくご存知のことではないでしょうか。

竹は昔から、日用品の材料や食材など人の生活に欠かせない存在でした。しかし、戦後、生活様式の変化に伴う代替品の普及などにより竹製品は減少するようになりました。

また、人々の生活に密着して維持されてきた里山は、戦後の燃料革命とともに薪や木炭が使われなくなると、里山を利用したり、手入れをする人が減り、竹林を含めた里山は管理されなくなりました。

さらに、1980年代以降、安価なタケノコが中国から輸入されるようになり、栽培農家の高齢化もあって竹林を含めた里山は、手入れされず放置されるようになり、繁殖力の旺盛な竹が勢力を拡げ、各地で森林や農地などに侵入・拡大しています。

最近では、全国的に竹林の拡大による森林の荒廃も進んでおり、水質保全の面からも極めて好ましくない影響を及ぼしています。

竹は、非常に生長が早く、あらゆる植物の中で最も早い成長力を持っています。地上にタケノコとして頭を出してから2、3ヶ月で成竹になります。成竹になると、それ以降は何年経っても生長しません。

また、竹は固く、弾力性もあり、空洞と節があります。割烈性という縦に細く割れる性質があることから、竹ひごが取れ、いろんな竹細工をつくることができます。さらに、竹の繊維は細長く、木材よりも良質の紙ができ、その他にも、レーヨン、竹炭、活性炭等の原料にもなります。

この他にも、竹の熱カロリーは木材よりも優れており、石炭の7割、重油の5割の熱量があり、成長の早さもあって、低コストで緑化保全型資源としての活用も注目されています。

このようにいろんな面において優れた性質を持った「竹」を積極的に利用することによって、地球環境保全の一助にしようではありませんか。

今回の「フィールドレポーター・アンケート調査」では、皆さんの身の回りで、どのような竹製品が使われているか、あるいは昔は使っていたが、今は使っていない竹製品にどんなものがあるか、それはなぜ使われなくなったのか、などを調べていただき、その結果から、今後もっともっと「竹」を利用することによって、美しい自然と豊かな地球環境を保全する方策を考えようとするものです。

正月の休み期間にあなたの身近な知人、ご両親あるいはお子さまなどフィールドレポーター以外の方々にも、本調査へのご協力をお願いして頂き、数多くの皆さまからのご回答をお待ち致しております。

なお、調査期間は 12月20日～1月31日とします。

以上
琵琶湖博物館フィールドレポータースタッフ

Appendix-2

2005年度第3回調査 竹の利用法調査票

1. 調査者名: _____ (年齢: 20 30 40 50 60 70 80歳代)
(あなたの年齢を で囲んでください)

2. 調査日時: _____ 月 _____ 日

3. 調査場所:

住所(詳しく): _____ 市・町 _____

メッシュコード: _____

E-mail : _____ 電話: _____

3. 現在どんな竹製品を使っていますか(下記事例を で囲んでください)。

- (1) 家具: 1 椅子 2 テーブル 3 すだれ 4 花瓶 5 屏風 6 ついたて
7 その他()
- (2) 家事用品: 1 ざる・カゴ類 2 物干竿 3 すのこ 4 竹の皮 5 食器 6 箸
7 その他()
- (3) 玩具: 1 竹とんぼ 2 笛 3 鉄砲 4 凧 5 釣竿
6 その他()
- (4) 農園芸用品: 1 垣根 2 植木鉢 3 門松 4 支柱 5 熊手 6 はしご
7 その他()
- (5) 漁具: 1 釣竿 2 もんどり類 3 びく
4 その他()
- (5) その他: ()

4. 以前使っていたが、今は使っていない(下記事例を で囲んでください)。

- (1) 家具: 1 椅子 2 テーブル 3 すだれ 4 花瓶 5 屏風 6 ついたて
7 その他()
- (2) 家事用品: 1 ざる・カゴ類 2 物干竿 3 すのこ 4 竹の皮 5 食器 6 箸
7 その他()
- (3) 玩具: 1 竹とんぼ 2 笛 3 鉄砲 4 凧 5 釣竿
6 その他()
- (4) 農園芸用品: 1 垣根 2 植木鉢 3 門松 4 支柱 5 熊手 6 はしご
7 その他()
- (5) 漁具: 1 釣竿 2 もんどり類 3 びく
4 その他()
- (5) その他: ()

5. 今、使っていない理由、今はどんなものに置換わりましたか。

6. 竹製品を作ったことがありますか。

どんな製品ですか()に具体的にお書き下さい。

- (1) 家 具()
- (2) 家事用品()
- (3) 玩 具()
- (4) 農園芸用品()
- (5) そ の 他()

どこで作りましたか。

- (1)学校 (2)自宅 (3)自治会等のイベント (4)その他

作り方は誰に習いましたか。

- (1)先生 (2)親 (3)知人 (4)その他

使った材料(竹)はどこで入手しましたか。

- (1)購入した (2)竹藪から取った (3)知人からもらった (4)その他

使った竹の種類がわかりますか。

- (1)マダケ (2)モウソウチク (3)ハチク (4)その他

7. 竹類(竹の皮を含む)の利用法についてその他の事例、アイデアをお書き下さい。

8. 竹の利用について、気づいたことや感想などを自由にお書き下さい。

「竹」豆知識

「竹の種類は」

著名な竹類分類学者 室井 綽博士は「我が国 には600種類ある」と述べられております。一方、鈴木貞雄博士は、それまでに発表された数百種類のタケ・ササ類を整理され、300種類以下にまとめられました。（「日本タケ科植物総目録」；1978年 学研）

これらの違いは、属・種・亜種・変種・品種などをどのように考えるかによるものです。したがって、どれが「正しい」とか「間違っている」と言うようなことはありません。しかし、私たちには、やはり分かり難いのも事実です。

これは、竹類がまだ進化途上の新しい植物であるため、突然変異を起こしやすく、いろいろな〔変わりモノ〕が現れるのではないかと思われ、その〔変わりモノ〕を分類学的にどのように扱うかによって「種類の数」に大きな違いが生じているのではないのでしょうか。

「竹と笹」

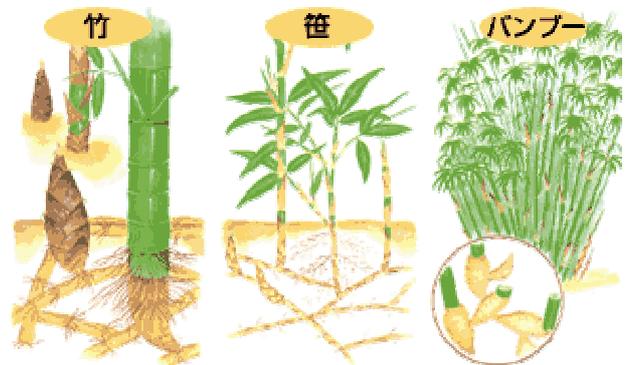
我が国では、竹類を「竹」と「笹」に分けて呼ぶのが一般的ですが、「竹」と「笹」はどこが、どう違うのでしょうか。

「竹」と「笹」の違いについても、学者間でかなり見解が異なります。

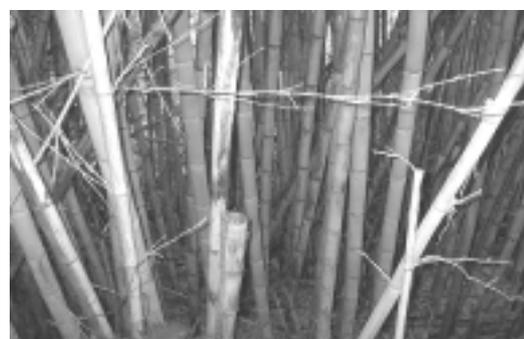
上記の鈴木貞雄博士は「タケ類、ササ類というのは分類学上の区分ではなく、あくまでタケ科の便宜上の区分にすぎない。つまり、「竹」とか「笹」というのは、学問的には意味のないことと述べておられます。

一方、室井 綽博士は「地下茎があって程が散生し、筍は生長後、竹の皮が脱落するものを「竹」、竹の皮が腐るまで竹稈に付着しているものを「笹」と分類しております。

また、地下茎がほとんどなく、程が分蘖(分けつ)によって繁殖する熱帯産のものを「クランプ・バンブー」とすることを提案しておられます。



管理された竹林 (5235-37-65)



放置された竹林 (5235-57-00)

(FRS 多胡さん撮影)